

第7回 稲戸井調節池整備・活用検討懇談会 議事要旨

日 時：平成 22 年 8 月 5 日（木）14:00～16:30

場 所：取手グリーンスポーツセンター 2階 研修室

○地下水

- ・（過年度の）地下水シミュレーション結果と現地調査結果が概ね整合したとの理解でよいか。
 - 過年度のシミュレーション条件と試験掘削の条件は若干異なるため、平成 22 年度はシミュレーションの条件等を見直して、シミュレーションの精度を高める。
- ・今後も地下水調査等を実施するならば、調査地点は掘削後も継続できる地点を選定してほしい。
 - 指摘内容を考慮し、観測計画を検討する。

○植生調査

- ・表土播き出しの期待する効果は何か。平成 22 年度の調査結果を十分に検討してほしい。
 - 効果は植生の早期回復である。また、平成 22 年度は表土播き出しによる植物の生育状況の違いを調査する予定である。植生調査により効果を検討し、稲戸井調節池の最終形をイメージした上で、植生回復方法を検討する。
- ・「表土播き出しなし」の場合は外来種が多くなるため、「表土播き出し」は非常に有効と考える。

○猛禽類

- ・鳥の会は、観察場所、種類、記録者等の精度でよければ資料を渡すことができる。
- ・今後も調査を継続し、稲戸井調節池における猛禽類の状況を把握していただきたい。

○利活用

- ・今後も飛行場を続けたいので、格納庫の建設を希望する。
 - 格納庫設置は河川区域であるため、制約が多く非常に難しい問題である。対応方法について、今後検討する。
- ・市民から様々な要望があり、守谷市ではグラウンドなどの利用を考えている。しかし、稲戸井調節池の（掘削）計画が見えないため、利活用計画を立てられない。
- ・都市的よりワイルドな環境を希望する。管理側は整備されている方が管理しやすい。
- ・周辺住民に有効な活用となる検討をしていただきたい。
- ・周辺住民は稲戸井調節池の今後の計画や利活用について知りたい。公開可能な範囲で提示してほしい。
 - 現状の用地買収率は 70%程度であり、まとまった土地が少ない。このため、利活用の検討等が進んでいない。
今後 3～5 年で用地買収を終える予定である。次回の懇談会では、できる限り（掘削計画を）提示できればと考えている。